

秋田市食品ロス実態調査報告書

令和3年7月8日版

1 実施概要

■実施日時	令和3年5月27日（木）28日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター 旧焼却棟ステージ
■作業時間	8:30～17:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ16名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> ・同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 ・調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 <ul style="list-style-type: none"> 【5月27日】 中央地区（檜山11袋）、東部地区（東通10袋）、西部地区（新屋元町又は日吉町5袋）、南部地区（御所野8袋）、北部地区（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和地区（河辺4袋） 【5月28日】 中央地区（川尻6袋、大町6袋）、東部地区（添川4袋、旭川4袋）、西部地区（新屋勝平町6袋）、南部地区（上北手8袋）、北部地区（飯島12袋）、河辺・雄和地区（雄和4袋） ・調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約168kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重さを計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手つかず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 412.0kg、1 袋あたりの平均重量は約 4.1kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 97.04kg、②東部地区は 18 袋で 56.10kg、③西部地区は 11 袋で 60.79kg、④南部地区は 16 袋で 58.31 kg、⑤北部地区は 24 袋で 109.68 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 30.11 kg であった。

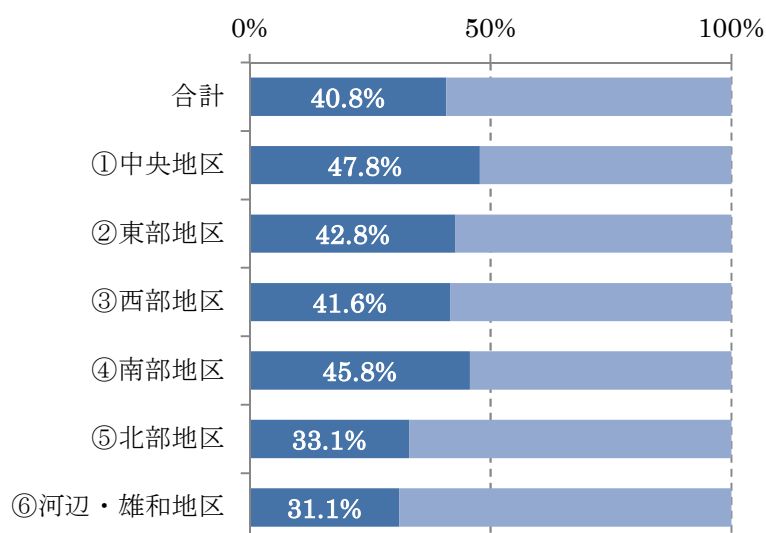
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	412.03	3,570	4.1	35.7
① 中央地区	23	97.04	810	4.3	35.2
② 東部地区	18	56.10	635	3.0	35.3
③ 西部地区	11	60.79	405	5.6	36.8
④ 南部地区	16	58.31	565	3.6	35.3
⑤ 北部地区	24	109.68	840	4.6	35.0
⑥ 河辺・雄和地区	8	30.11	315	3.8	39.4

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 40.8%、地域別に見ると①中央地区が最も高く 47.8%、次いで④南部地区の 45.8%、②東部地区の 42.8%、③西部地区の 41.6%、⑤北部地区の 33.1%、⑥河辺・雄和地区の 31.1%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	412.03	168.08	40.8%	59.2%
①中央地区	97.04	46.41	47.8%	52.2%
②東部地区	56.10	24.00	42.8%	57.2%
③西部地区	60.79	25.29	41.6%	58.4%
④南部地区	58.31	26.68	45.8%	54.2%
⑤北部地区	109.68	36.34	33.1%	66.9%
⑥河辺・雄和地区	30.11	9.36	31.1%	68.9%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

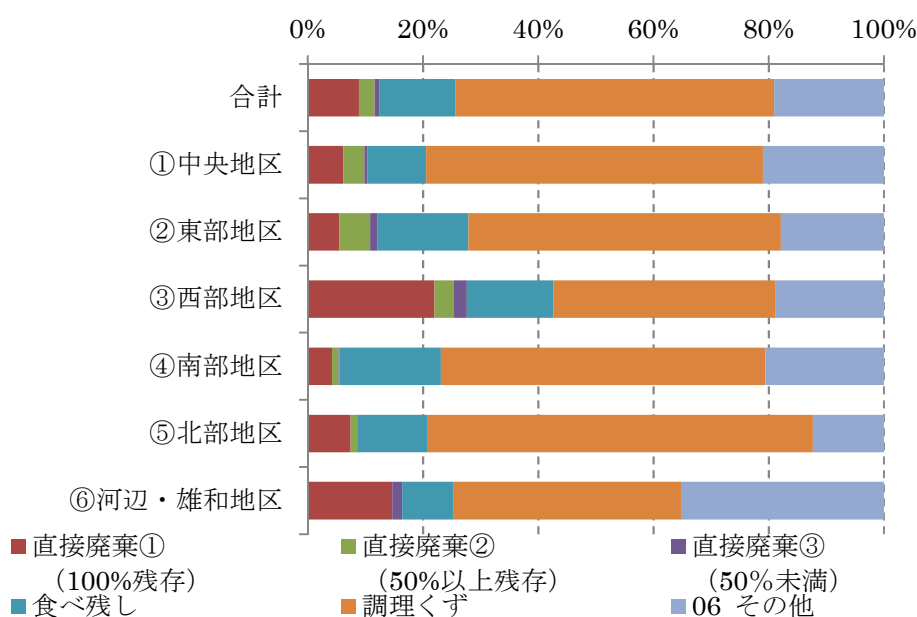
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計では25.7%、地区別に見ると③西部地区が最も高く42.6%、次いで②東部地区の27.9%、⑥河辺・雄和地区の25.3%、④南部地区の23.1%、⑤北部地区の20.8%、①中央地区の20.6%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、③西部地区の食品ロスの割合は、①中央地区よりも22.0ポイント高い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち8.9%を占めており、③西部地区で22.0%と高く、次いで⑥河辺・雄和地区が14.7%、⑤北部地区が7.4%、①中央地区が6.2%、②東部地区が5.5%、④南部地区が4.2%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では13.3%、④南部地区が17.7%と高く、次いで、②東部地区の15.9%、⑥河辺・雄和地区が最も低く8.9%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	25.7%	8.9%	2.7%	0.8%	13.3%
①中央地区	20.6%	6.2%	3.6%	0.6%	10.2%
②東部地区	27.9%	5.5%	5.4%	1.2%	15.9%
③西部地区	42.6%	22.0%	3.4%	2.2%	15.0%
④南部地区	23.1%	4.2%	1.1%	0.1%	17.7%
⑤北部地区	20.8%	7.4%	1.2%	0.0%	12.2%
⑥河辺・雄和地区	25.3%	14.7%	0.0%	1.7%	8.9%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

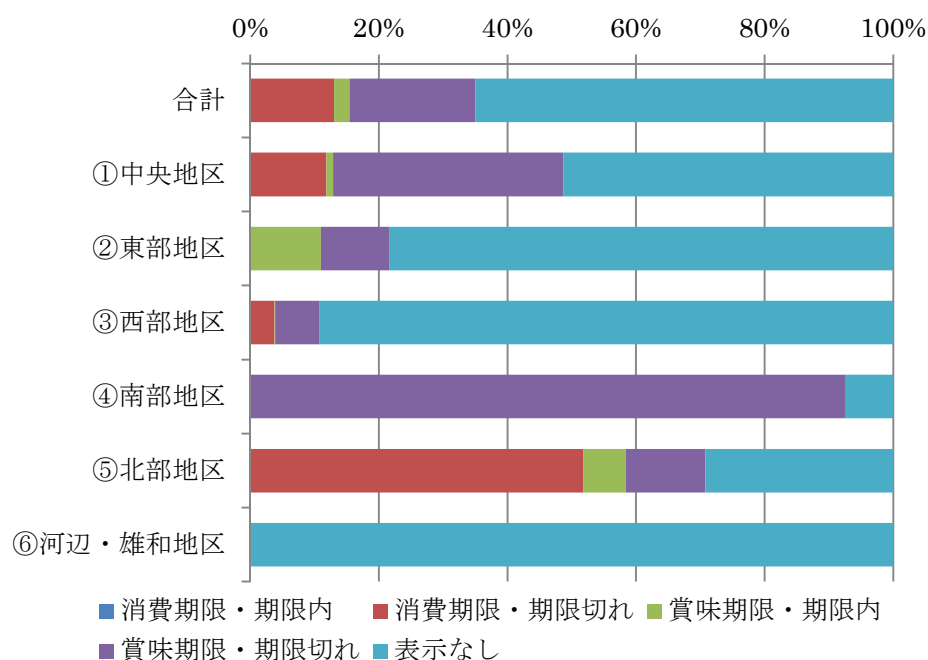
(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く65.0%であり、消費期限の表示があったものは13.0%（期限切れのみ）、賞味期限の表示があったものは22.0%（期限内が2.4%、期限切れが19.6%）となっている。

消費期限に着目すると、全ての地区で「期限切れ」となっており、⑤北部地区が51.8%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち2.4%、地区別に見ると②東部地区が最も高く11.0%となっている。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
	合計	0.0%	13.0%	2.4%	
① 中央地区	0.0%	11.8%	1.0%	35.8%	51.3%
② 東部地区	0.0%	0.0%	11.0%	10.6%	78.4%
③ 西部地区	0.0%	3.8%	0.1%	6.9%	89.2%
④ 南部地区	0.0%	0.0%	0.0%	92.5%	7.5%
⑤ 北部地区	0.0%	51.8%	6.7%	12.4%	29.2%
⑥ 河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

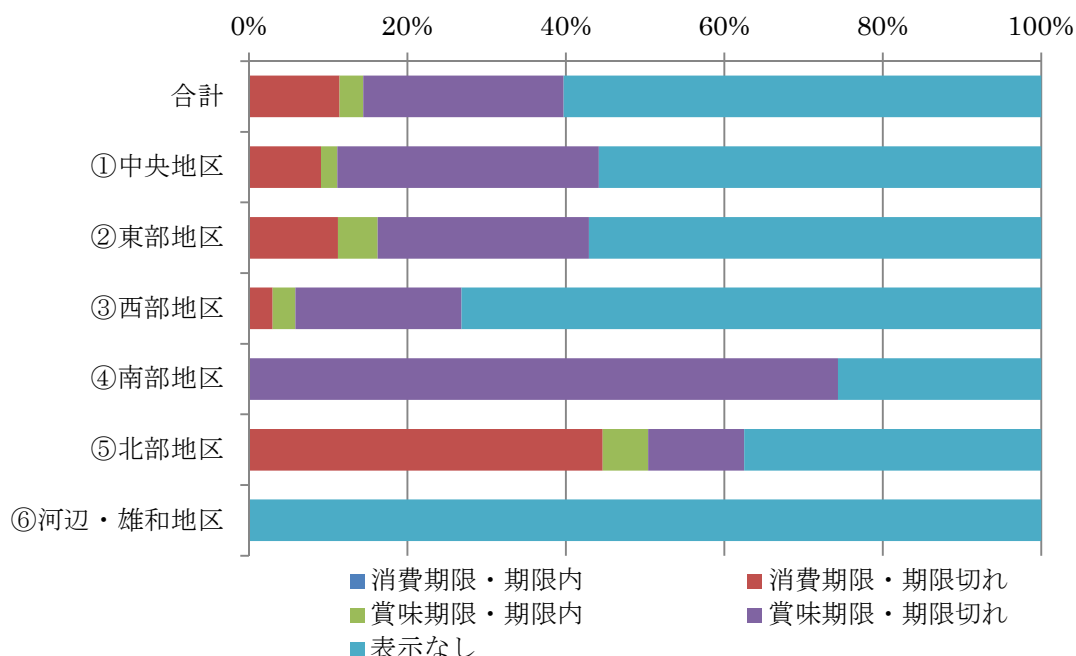
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く60.3%であり、消費期限の表示があったものは11.4%（全て期限切れ）、賞味期限の表示があったものは28.3%（期限内3.0%、期限切れ25.3%）となっている。

消費期限に着目すると、全て「期限切れ」となっており、⑤北部地区が44.7%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち3.0%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く5.7%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	11.4%	3.0%	25.3%	60.3%
① 中央地区	0.0%	9.1%	2.1%	33.0%	55.8%
② 東部地区	0.0%	11.2%	5.0%	26.6%	57.1%
③ 西部地区	0.0%	3.0%	2.9%	21.0%	73.2%
④ 南部地区	0.0%	0.0%	0.0%	74.4%	25.6%
⑤ 北部地区	0.0%	44.7%	5.7%	12.1%	37.5%
⑥ 河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和2年度の実績を参考に一人1日あたりの食品ロス発生量を推計すると54.3g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が26.2g/人・日、食べ残しが28.1g/人・日と推計された。

図表6 一人1日あたりの食品ロス発生量（秋田市）

